

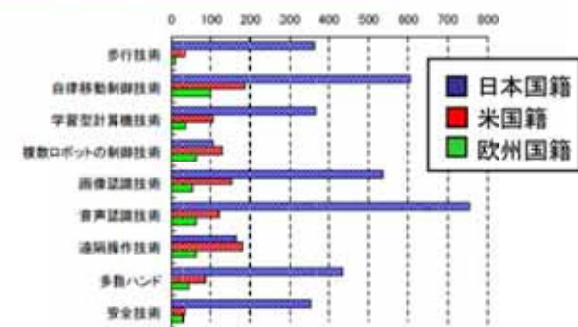
「革新的技術」候補の例（2）～生活支援ロボット技術～

技術の概要

- ・ロボット技術の・認識・判断・行動の知能化
- ・モジュール化・統合化により開発期間・コスト削減（セル生産ロボットの場合、1/2以下の開発期間短縮が目標）
- ・生活の場で人との共生を可能とする安全性・信頼性・適応性の高い生活支援ロボットの実現
- ・ユビキタス技術との融合により社会インフラへ

日本の技術の優位性

- ・日本は産業用ロボットでは、台数及び特許件数において世界トップレベル
- ・音声認識や安全技術など特に人間との親和性に関する技術や多様なロボット開発基盤の国際標準化では日本が先行

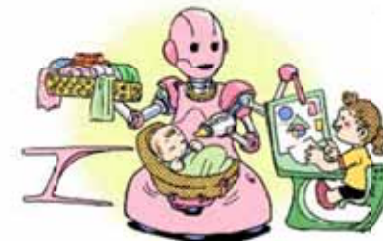


H18年度国籍別累積出願件数(特許庁調べ)

社会へのインパクト

- ・超高齢社会に向けて、生活環境を改善、介護や家事などの重労働から解放
 - ・2025年には、国民の30%以上が65歳以上の高齢者となる超高齢社会に
 - ・労働力人口は現在より約800万人減少（2025年）
 - ・高齢者独居世帯割合は、8%（2005年）から13.5%（2025年）に増加
- ・2025年頃には、ロボットの労働力は国内の労働力人口減少の約半分に相当との予想
- ・モジュール化・統合化による国際標準を確立することにより、我が国のロボット産業の国際競争力が一層向上
- ・ロボットの市場規模見込としては、2025年に国内で約6.2兆円（生活分野を含む非製造分野が約4.8兆円）

家庭用ロボット



「イノベーション25」イラストで見る20のイノベーション代表例 より

開発のための必要とされる組織・体制

- ・ユーザー視点からの開発コンセプトの確立及びコンセプト実現に向けチーム間競争のできる研究体制
- ・ロボットの効果等の検証のための実証実験が行える柔軟な開発環境の構築と提供

必要とされるシステム改革事項

- ・ロボットの導入促進のための建築構造等の基準見直し
- ・ロボット利用のための安全確保ルールづくり及び保障制度等のあり方
- ・ネットワーク融合に向けた情報セキュリティの向上

今後の進め方

「革新的技術」（候補）を更に精査し、
その推進方策の具体化に向け、
「スーパー特区」構想も含めて
検討を行い、
経済財政諮問会議と連携して
5月を目途に「革新的技術創造戦略」
としてとりまとめ。